

馬術 入賞へ決意

障害飛越 京の東良監督語る



リオデジャネイロ五輪に挑む馬術の障害飛越監督を、アテネ、ロンドン五輪でも指揮を執った京都乗馬クラブの東良弘一監督(69) 東京都北区IIが務める。本番まで約2カ月。日本の現状や強化策などを聞いた。(聞き手・大竹逸朗)

本当に強い選手厳選 海外で力付けさせる



リオ五輪入賞へ向け、意気込みを語る東良監督(京都乗馬クラブ) 撮影 辰口直史

予選について。「障害飛越は昨年8月の東南アジア・オセアニア地域予選で1位になり、3大会ぶりの団体出場権を得た。5カ国・地域が出場して上位2カ国が団体枠を獲得できるが、日本が1位でオーストラリアが2位。団体メンバー4人は、国内選考会で本当に強い選手を選

ぶ。6大会連続出場となる。強化について。「従来日本は選手が自由に強化に努め、一発勝負で代表を決めてきた。昨年から世界有数の牧場オーナーであるドイツ人のポール・シヨッケメーレ氏を日本代表のセネラルマネジャー(GM)に据えた。欧州の大会に出場するために必要な招待状を得られやすいのがメリット。安くない馬も入手できる。この牧場からはロンドン五輪で15頭の馬を他国に輩出している」

「欧州勢、今はオランダが強い。アジア・オセアニアは遅れていて、日本は過去の実績で見ると、障害飛越は下位。だが、ロンドン五輪よりレベルは上がっている。東京五輪でメダルを取るのが目標で、リオでは入賞しないといけない」

「選手は本場にもまれて経験を積むために、海外で活動しないといけない。選手にも声をかけ、GMの牧場で働いて腕を磨く試みを始めている。また、国体で障害のレベルを上げて競技力向上につなげる考えもある」

馬術 五輪では唯一男女が同じ舞台で戦う。五輪は障害飛越、馬場馬術、総合馬術の3種目。障害飛越は様々な障害物を順番通りに飛越、走行する。障害物落下や不従順などのミスなく、早くゴールすることが求められる。

馬場馬術は演技の正確さや美しさを競う。常歩(なみあし) 速歩(はやあし) 駆歩(かけあし)の3種類の歩き方を基本に、図形を描いたり、スキップのようなステップを踏んだりする採点競技。



京大は創部100年超 国体第1回開催

京都は、馬術の歴史に深く関わってきた。国体の第1回会場は現在の長岡京市にあった長岡競馬場。日本馬術連盟会長は同大卒の千玄室氏が務め、五輪にも東良監督らが出場している。背景は学生馬術にあるらしい。京大は創部100年を超え、同大や立命大も戦前に歩み始めたというから、その長さに驚く。東良監督は「京大の馬はほとんど官馬だった。軍の払い下げでいい馬をもらって、馬に教えてもらうんです」。京都出身の故荒木雄豪氏はローマ、メキシコ各五輪に、高宮輝千代氏はミューンヘン五輪に出場。モントリオール五輪は故佐野種茂氏が監督を務めた。近年、京都から五輪出場者は出ていない。競技を続ける上でネックは金銭面という。東良監督は「お金をかけなくても勝負できる方法はある。若い子に浸透すれば夢を持つるスポーツになる」と、施策で新風を吹き込む。(大竹逸朗)

京都に根付く歴史

【ベルリン】ジャネイロ五輪代表と共同【日本馬術連盟は1馬ク】ら4選手を発表した。杉谷は1996

杉谷が6大会連続代表



選考合宿に臨んだ馬術リオ五輪代表の(前列左から)武田麗子、杉谷泰造、柁井俊樹と(後列左から)福島大輔、東良弘一監督(補欠となった)斎藤功貴 5月31日、ハーゲン(日本馬術連盟提供) これまで柔道女子48キ級金メダリストの谷亮子と並んでいた。武田麗子は前回ロンドン五輪に続く代表入り。福島大輔(STAIR HORSES)と柁井俊樹(乗馬クラブイン)は初めての五輪出場となる。

日、障害飛越のリオデジャネイロ五輪代表と共同【日本馬術連盟は1馬ク】ら4選手を発表した。杉谷は1996